

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸科 昼間 I 部) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生物学	医学の基礎となる生物学を学ぶことにより生命の不思議や尊さを理解できる。	通1 年年	60	4	○			○			○	
○			栄養学概論	栄養素の代謝、生理機能、病気に関連した栄養などを理解できる。	前2 期年	15	1	○			○				○
○			外国語	グローバルな感性を養い、英語圏でのコミュニケーションをとることができる。	通1 年年	60	4	○			○				○
○			情報社会学	コンピューターの基本的操作法を知る。社会で活用されるSNSやクラウドなどを理解できる	通1 年年	60	4	○			○				○
○			コミュニケーション論	社会的行為として対人コミュニケーションスキルの向上を図る。	前1 期年	15	1	○			○				○
○			解剖学Ⅰ	人体の基本構造を中心とした解剖学的知識を理解できる。	前1 期年	60	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ		後1 期年	60	2	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	人体の機能を中心とした基礎的内容を理解できる。	前1 期年	60	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ		後1 期年	60	2	○			○			○	
○			運動学	人間の運動にかかわる身体の機能と構造を理解できる。	通2 年年	60	2	○			○			○	

○		解剖生理学Ⅰ	身体の構造（解剖学）と生理学の知識を踏まえ、人体におこる現象がなぜそうなるのかを総合的に理解できる。	後1期年	30	1	○			○			○
○		解剖生理学Ⅱ		前3期年	30	1	○			○			○
○		病理学	疾病の成り立ちを学び、病気の構造を理解できる。病気の成因を考えその予防法を理解できる。	通2年年	60	2	○			○			○
○		臨床医学総論	臨床に必要な診察及び治療に関する医学的知識、検査法や専門用語について理解できる。	通2年年	60	2	○			○			○
○		臨床医学各論Ⅰ	西洋医学の観点から様々な病気の原因、症状、治療法などを理解できる。	通2年年	90	3	○			○			○
○		臨床医学各論Ⅱ		前3期年	30	1	○			○			○
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基本的な知識、評価法、診断、技術の実際を理解できる。	通3年年	60	2	○			○			○
○		衛生学・公衆衛生学	医療従事者として必要な健康や保健に関する概念を幅広く理解できる。	通1年年	60	2	○			○			○
○		関係法規	鍼灸師、鍼灸院に関連する必要な法律を理解できる。	前3期年	30	1	○			○			○
○		医療概論	医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理などを理解できる。	前1期年	30	2	○			○			○
○		社会保障制度と職業倫理	医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理などを理解できる。	前3期年	15	1	○			○			○
○		東洋医学概論Ⅰ	東洋医学の起源と発展を理解し、陰陽五行論や病因論など鍼灸の基礎となる部分を理解できる。	通1年年	60	2	○			○			○
○		東洋医学概論Ⅱ		通2年年	60	2	○			○			○
○		東洋医学概論Ⅲ		前3期年	30	1	○			○			○

○		経絡経穴概論 I	鍼灸治療はツボを利用し施術を行う。ツボ＝経穴が存在する場所を理解できる。	通 1 年	90	3	○			○		○	
○		経絡経穴概論 II		後 3 期年	30	1	○			○		○	
○		はりきゅう理論 I	鍼灸の材料や技術だけでなく、鍼灸刺激が身体にどのように作用するのか理解できる。技術や理論も含め様々な視点を学ぶ。	後 1 期年	15	1	○			○		○	
○		はりきゅう理論 II		前 2 期年	15	1	○			○		○	
○		生体観察	身体の正常な構造や機能を学ぶことで病態異常の変化に気づく、基礎を学ぶ。	後 1 期年	30	1	○			○		○	
○		病態生理学	解剖学や生理学、病理学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を理解できる。	通 2 年	60	2	○			○		○	
○		臨床経穴学 I	ツボ＝経穴はどのように用いられているのか、どのような作用があるのか臨床の立場から理解できる。	通 2 年	60	2	○			○		○	
○		臨床経穴学 II		前 3 期年	30	1	○			○		○	
○		東洋医学臨床論 I	病態を東洋医学と現代医学、それぞれの立場から原因や治療方法などを理解できる。実際の治療に直結する重要な科目となる。	通 2 年	60	2	○			○		○	
○		東洋医学臨床論 II		後 2 期年	15	1	○			○		○	
○		鍼灸診断学 I	鍼灸診断に必要な知識を構築し症例検討を通じ、個々の患者状態が把握できる能力を得ることができる。	前 2 期年	30	1	○			○		○	
○		鍼灸診断学 II		通 3 年	90	3	○			○		○	
○		社会はりきゅう学	社会における鍼灸師の役割、活動など様々な視点を学ぶ。	後 3 期年	30	2	○			○		○	
○		はり実技 I	はりの基礎的な手技から安全に施術できる能力を得ることができる。	通 1 年	90	3			○	○		○	

○		はり実技Ⅱ	様々なはり治療の手技を学び、体の各部位へのアプローチ能力を得ることができる。	通2 年年	90	3				○	○				○	
○		はり実技Ⅲ	様々な疾患に対するはり治療のアプローチを学び、治療方針など一連の組立てることができる。	前3 期年	30	1				○	○				○	○
○		きゅう実技Ⅰ	きゅうの基礎的な手技から安全に施術できる能力を得ることができる。	通1 年年	90	3				○	○				○	
○		きゅう実技Ⅱ	様々なきゅう治療の手技を学び、体の各部位へのアプローチ能力を得ることができる。	通2 年年	90	3				○	○				○	
○		きゅう実技Ⅲ	様々な疾患に対するきゅう治療のアプローチを学び、治療方針など一連の組立てることができる。	前3 期年	30	1				○	○				○	○
○		認定実技試験 対策	患者を診察する上で必要な知識・技術を学び、実技試験を合格することができる。	後2 期年	60	2				○	○				○	
○		臨床実習Ⅰ	附属鍼灸院などで実践的に鍼灸方法論を理解できる。問診・治療の進め方・経過観察・カルテ書きなど総合力を高めることができる。	後2 期年	45	1				○	○				○	
○		臨床実習Ⅱ		通3 年年	90	2				○	○				○	
○		臨床実習Ⅲ		前3 期年	45	1				○		○			○	
○		総合医学特論 Ⅰ	人体という大きな項目から総合的に知識をまとめ臨床に生かすことができる。	通1 年年	15	1	○				○				○	
○		総合医学特論 Ⅱ		通2 年年	15	1	○				○				○	
○		総合医学特論 Ⅲ		通3 年年	60	4	○				○				○	
○		西洋医学特論 Ⅰ	現代医学的な立場から総合的に知識をまとめ臨床に生かすことができる。	通3 年年	60	2	○				○				○	
○		西洋医学特論 Ⅱ		通3 年年	60	2	○				○				○	

○		東洋医学特論 I	東洋医学的な立場から総合的に知識をまとめ臨床に生かすことができる。	後3 期年	30	1	○			○		○	○
○		東洋医学特論 II		後3 期年	30	1	○			○		○	○
○		臨床医学特論 I	人体の機能を中心とした基礎的内容を理解できる。	後3 期年	30	1	○			○		○	○
○		臨床医学特論 II		後3 期年	30	1	○			○		○	○
○		こどもコミュニケーション 論	こどもや保護者などに対して臨床現場で必要な人との関わり方などができる。	前2 期年	15	1	○			○		○	
合計			57 科目	単位時間(103単位 2715時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の結果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。